

第 20 回障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会議事概要（案）

日 時 令和7年3月6日（木曜日） 14:00～16:00
会 場 横須賀市総合福祉会館 5階 視聴覚研修室
出席委員 浅羽委員、井上委員、大武委員、工藤委員、崎山委員、
白井委員、白石委員、山田委員、小菅委員
欠 席 青木委員、熊谷委員、原口委員
事務局 八橋課長、関澤点字図書館長、窪係長、泉主任
議 題 別紙資料次第のとおり
配布資料 別紙のとおり

審議概要

1 開会、資料確認、定数報告、傍聴人数報告

- ① 事務局が司会となり開会した。
- ② 定員数 12 名中、9名の出席があり、障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会規則第4条により会議が成立している旨を報告した。また、情報保障の一環として、要約筆記の方々にも協力を依頼し、通常であれば、手話通訳の方々にもお願いしているが、今回は利用者がいないため、要約筆記のみとなっているとした。
- ③ 傍聴の申し出が無かった旨を報告した。
- ④ 配布資料の確認を行った。

2 議 事

議事に入り進行は事務局から井上委員長となった。

議事（1）「第 19 回協議会の会議録(議事概要)の確認について」

事務局より、資料 1 について、議事録は会話形式により発言内容を要約して事務局で案を作成。事前にメールで内容確認を依頼したものであることを説明した。

特に修正の意見はなく、第 19 回障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会議事概要は確定した。

続いて、議事（2）「今年度の施策の実施報告について」、事務局より資料 2 に基づき説明し、各委員より次のような質疑が行われた。

【工藤委員】

説明ありがとうございました。手話通訳の講習会が申込者の集まりが厳しい、不足しているとの

ことですが、受講生の年齢層を教えてください。

【事務局】

手話講習会の初級については幅広く集まっています。先ほど、昼と夜を交互に行っていると説明しましたが、お昼の講習会だと年齢層が高く、仕事を退職された方、主婦層の方など、40代以上の方が多く、その中でも特に60代以上の方が多いです。

夜の開催は、仕事をされている方も参加しやすいので20～30代の方の申し込みもあります。ただ、若い方は講習会を続けづらいことがあるのか、途中で辞める方が多い印象です。

【工藤委員】

ありがとうございます。受講生は何の広報を見てきているのですか。

【事務局】

受講生に、何をみて参加されたのか、アンケートを取っての確認はしていないのですが、広報手段は広報よこすか、ホームページ、ここ数年はSNS、ラインやツイッターなどを使っての広報をおこなっています。

【工藤委員】

ありがとうございます。

【小菅委員】

手話通訳者や要約筆記者のコミュニケーション等の支援者を養成する目的で講習会を実施していると思いますが、手話通訳の初級が41回とかなり数が多く、修了者がどうしても減ってしまう。

この講習会を受けると手話通訳者として活躍できるのか、また、手話通訳者になれるのであれば、活動するにあたって何か登録が必要なのか教えていただきたい。

【事務局】

手話通訳者として活動するには、最終的に神奈川県や国が実施している試験を受け、資格を取得してから活動することができます。市が実施している初級、基本、応用の講習を受けるだけではボランティア活動はできますが、明確な通訳者としての活動はできません。

初級に関しては、全41回と長い講習となりますが、実際活動している手話通訳者と比べるとまだまだ、基本的な部分だけです。初級修了ぐらいでは、ボランティアでも厳しいかもしれないというレベルです。

【小菅委員】

ありがとうございます。実はわたくしども、横須賀こころの電話という電話相談のボランティアを募集し、講習会を受講していただき、それを修了するとすぐボランティアとして活動してもらっていますので確認させていただきました。手話通訳者の年齢について、先ほど工藤委員からもお話

ありましたが、こころの電話の電話相談ボランティアについても高齢化があり、あたらしく入る方もいますが、やめていく方もいて、コミュニケーション等の支援者の充足数、状況数を教えてもらえるとありがたいのです。

【事務局】

どのくらいのニーズがあって、どのくらいの人数がいれば充足できるのかは、きちんと把握できていない現状があり、後ほどご説明しますが、来年まずそこを確認したい。実際に手話通訳者、要約筆記者で今、活動している方、引退された方、これまでの派遣の実績、そういったところをきちんと分析をして、今後、いつぐらいまでに何人ぐらいの方がいれば、情報保障が満たされるのかをまずは把握したい。

先ほどの話の補足ですが、初級を受けてくださった方が、その後、市内にいくつか手話サークルがありますのでそこへ登録されて、数年間、サークル活動の形で手話を学びながら実績を積み、そこからさらに、基本、応用の講習を受け、県の講習会に参加していくのが基本的な流れだと、活動されている手話通訳者の方達からは聞いています。

【小菅委員】

ありがとうございました。

【大武委員】

今まで何度も説明を受けていますが、確認です。最終的に手話通訳として活動できるようになるためには、この初級、基本、応用を修了し、県の最終講習会を受けて、そこで認定試験をうけるというプロセスがあるのでしょうか。

【事務局】

市の初級と基本に関しては、国が定めるカリキュラムがあり、それに基づいた内容になっています。

大体のルートは、まずは市の初級を受け、次に基本を受けて頂き、そのあと、神奈川県の手話通訳者養成講習会があり、1と2・3の2段階のレベルの講習会があります。

市の基本が終わったら、県の1という講習会を受け、さらに県の2・3を受講することになります。

市の応用は、この2・3の研修をバックアップする、試験対策のような位置づけです。

県の2・3を受けてそのあと認定試験を受講されるのがセオリーです。それに受かると、晴れて手話通訳者として活動できるという流れです。

【大武委員】

分かりました。手話通訳者になるというはいかに難しいか。自分では自然にその動作が出来ない。

私は団体の定例会の最初の挨拶を手話でやってみようと何回も思いましたが、難しくて続かなかった。なかなか難しいのでうまく育ってくれると良いですね。

【事務局】

手話通訳者になるまでに、最短で5年くらいかかります。本当に長いです。1回で合格はなかなか難しいようなので、数年間、くり返し受験している方もいらっしゃいます。長期間で通訳者の養成を考えていかないといけないところがあります。

他の意見はなく、議事(2)「今年度の施策の実施状況について」の議事は終了した。

続いて議事(3)「令和7年度予算について」、事務局より資料3に基づき説明し、各委員より次のような質疑が行われた。

【井上委員長】

今、説明がありました手話通訳者等の報酬の増額ですが、他市の状況を鑑みてとのことなので、大変望ましいことだと思います。

改変するにあたって基準となった部分、他市に比べて、平均的に見て同じくらいのところまで増額ができたというところなのか、近づいたが他市に比べて十分ではないのか。目安があれば教えてください。

【事務局】

具体的には、川崎市が同じぐらいで同じような報酬体系になっています。横浜市はもう少し高いです。

他市については4,400円や4,800円だったりとばらつきがありますが、神奈川県内では、平均より少し上になったと思います。

【井上委員長】

ありがとうございました。

他の意見はなく、議事(3)「令和7年度予算について」の議事は終了した。

続いて、議事(4)「令和7年度の取り組み案について」、事務局より資料4に基づき説明し、各委員より次のような質疑が行われた。

【大武委員】

令和7年度の取り組みについて説明があり、非常に心強いです。

このコミュニケーション、お互いの意思疎通を速やかにするというのは、意識せずに無意識にできるような形にするのが必要だと思います。

私達が手話を勉強してもなかなか身につかない。どうすればよいかということもある。

もっと若いときに、手話を学ぶチャンス、クラブ活動とか、遊びの中とか、それがどうやればできるのか。

例えば、私達は肢体不自由者の運動会を 40 年ほど実施していますが、ボランティアについては、高等学校の方をお願いするのを基本線としている。

そういうところで、車いすの人の車を押してみるとか、体験をし、その上で日頃、街角で出会ったときに自然に声をかける、かけられる、というような気軽な関係が作られるのではないかという思いがある。

高等学校とか中学校とか、特定の学校が点字図書館に見えて、見学されている。横須賀でも、福祉系に力を入れている高等学校も結構ある。そういう学校で手話クラブなどが出てくれば、と。

また、県立の福祉大学の科目の中にコミュニケーションについての科目があるかもしれない。市内に看護学校もある。

いろいろなところが、正面から目を向けてみれば良いのではと思います。

ノーマルな、あるべき姿の状態だけでなく、アブノーマルな状態、いわれているような災害の時に福祉避難所とか、色々なところの中で、意思疎通をどうするか。それを地域の中で「ちょっと私、これをやりましょう」というような人、フラットに動く方などもあります。

広く考えていけば良いのではないかという希望です。

もうひとつは、AI の技術が進んでいる感じなので、いろいろなツールが使いこなせばいいのですが。福祉機器展でもいろいろなものが出ています。

ショールームではないですが、市役所の中や、総合福祉会館の 2 階の一部ででもそういう体験ができるとか。なかなか難しいとは思いますが、少しそういったところにお金をかけてみてはと思います。

【事務局】

若い人たちに向けての理解促進のアプローチは、本当に大事だなと思っています。

先ほど申し上げた手話通訳の話で、最低でも 5 年間となると、40 代の後半から始めても活動できるころには 50 代後半、60 代ぐらいになると後、何年活動できるのだろうかと思います。

なるべく若いうちからチャレンジしていただけると長い活動期間が確保できて安定した情報保障者の確保につながるのではないかと思います。そこまでいかななくても、専門的技術を身に付けるのは難しいけれど、理解があるだけでも、ちょっとしたことで、災害時にも、色々な場面で協力いただけるようなマインドを形成できるのではないかと思います。

今回の取り組み案に書かせていただいた出前トークの事業でも、できればいいなと前から思っていたので、何回か試してみて、形になればそれを広げていくとか。大学や高校に広げていけばいいなと思っています。ぜひ協力をお願いしたいです。

ICT のツールの部分については、視覚障害の方向けには点字図書館がありますが、それ以外の方に対しての拠点がありません。情報収集をしてある程度お答えできればと思います。気楽に体験できる場があるのは良いと思います。できるかどうかわかりませんが今後の参考にさせていただきます。ありがとうございます。

【大武委員】

確認です。

新しく稼働を始めた総合医療センターは、特別な情報のコミュニケーションについての仕組みは入れられていますか。

手話通訳が必要な方がわざわざ手話通訳者を連れて行かなくても、受付とか、画像で認識できる形になっていますか。

【事務局】

見学に行きたいと思いつつ、まだ行けていません。建築の段階では、受付、待合室では電光掲示板が付くと建築の担当からは聞いています。バリアフリーは整備されているそうです。

一回見に行ってみたいと思っています。

【小菅委員】

先日、2月22日に総合医療センターで開院式があり、私も参加させていただきました。

まだ、物の搬入はできていませんでしたが、建物はできていて、確かに電光掲示板はありましたので、視覚で呼ばれたかどうかということは判断できると思います。

【工藤委員】

令和6年度の実績を含めて話を聞いていると、手話通訳者は5年間かかるとか、そういう情報が不足している感じがします。一般の方に伝わっていない部分があり、理解されていない部分があるのかなど。

今、セミナーを実施している中では、事前に説明会をやって、その目的意識が分かった方がある程度参加されていると思います。

その前の段階で、コンテンツをしっかり作っておくことが一つ重要ではないかと思っています。

今、SNSもそうですが、根拠のない情報があふれてしまっているのも、今の通訳者にアンケートを取る、お話を聞くというのがありましたが、きちっとしたコンテンツとして、通訳者の方達がどういう思いをもって、どういう苦勞をしてなっていくというコンテンツをしっかり作る。行政が実施していくことなので、それを拡散していくことは、おそらく各課の連携が必要になったり、市で作っている広報よこすかのコンテンツはすごく少なくなってきたので載せるのはうまくできないかもしれないが、男女共同参画課で出している紙媒体もあるので、そこに2次元コードだけを付けてもらい、手話講習会の情報を載せるなど、まずは正しい情報を行政が出していくことがとても重要だと感じました。

今、ケアマネジャーさんをお願いしてもすぐ来れない状況もあるということで、ケアマネジャーさんもすごく忙しいので、そういうものを作り、ちょっと配り、そこからすぐ見れるものがあるとすごく良いのではないかと思います。

【事務局】

ありがとうございます。通訳者に関してはキャリアパスのようなもの、こういう流れでなれますというものが確かにお伝えしきれてないところがあると思っています。

講習会の初級は別として、もう少し段階を踏んで来た方には意識してもらうためにも、そういう分かり易いキャリアパス、ルートが見えるものがあるといいなと確かに思いました。参考にさせて頂きます。その方法についてもご意見ありがとうございました。

【工藤委員】

学校の中での取り組みのお話について。

前にもお話をさせて頂いているかも知れませんが、横須賀商工会議所と横須賀市と横須賀市教育委員会では中学校全校でキャリア教育推進プログラムというのがあり、中学の総合学習の時間に、市内で働いている方々を派遣して、マイ・タウン・ティーチャーとして働くことはこういうことだよ、ということ子どもたちに教えてあげるといふプログラムをやっています。

こういうプログラムの中に手話通訳者に行っていていただき、子どもたちに話してもらうこともできるかと。子どもたちは感受性が高いのですごく響くと思います。

参考までに、一回見に行っていていただいても構わないので、これが使えるよということであればお声がけいただければと思います。

【事務局】

ありがとうございます。ぜひ相談させていただきたいと思います。

【崎山委員】

崎山です。手話の話にちょっと触れると、最近、ドラマ、映画とかで手話がだいぶ目に見える形になっているものが増えてきているので、おそらくそれで講習会に申し込む人数が増えているのかなという印象もあります。

デフ・ヴォイスであったり、横須賀の市長の会見に手話通訳が入っていたり、そういうところで通訳を目にする機会が増えているんだと思います。

実際に、県立保健福祉大学には手話サークルがあり、そこに熊谷さんの入っている協会の方がそこへ行ったりしています。そういうところもあるので、そのあたりから、少しずつ普及してはいますが、そこから通訳に受かるまでの年数を考えると、実際の通訳者の人数が増えるのはもうちょっとかかるのかなと。最近のドラマをみてから考えても、もう少し先かなと思ったりもします。

話を戻します。

「令和7年度の取り組み案について」の「2取り組み案」の「(2)コミュニケーション等手段の普及の啓発」のところでの「さらなるコミュニケーション等支援者の配置」のところ、令和7年度の取り組みの中の新規に「市内の企業団体等への啓発」というところがあります。

横須賀市の場合は、例えば企業が手話通訳を付けたいとか、要約筆記者を派遣してくださいとなった時には、横須賀市に依頼して、横須賀市の通訳者が派遣される形ですか。そのあたり1点まず、確認できればと思います。

【事務局】

おっしゃるとおりで、横須賀市に設置の手話通訳者の職員がおりますのでそこに申し出いただいで、市の方でマッチングをして配置するという流れになっています。

【崎山委員】

ありがとうございます。

市内のことであれば市内の方が行った方がわかりやすかったりすると思いますので、それが一番望ましい形かと思います。

もう1点ですが、「コミュニケーション等手段の普及の啓発」というところで、「さらなる市民への障害者理解の促進」のところがあるのですが、どうしても視覚障害や聴覚障害のところは分かり易い。支援方法も分かり易いというところがあり、上がりやすい。

失語症の方、高次脳機能障害がある方もやはりコミュニケーションとか情報の取得が難しいという方がいらっしゃるの事実で、難病の方で発声が難しいとか、表出の方法が何か50音をタッチするような方とかいらっしゃるの、出前トークの中でその辺をふれていただくとすると、もう少し幅が広がるのかなとは思っています。支援方法はちょっと複雑で分かりづらい。その方それぞれに合わせる部分もありますが、共通点の部分もあります。そういう方がいる、そういう方も情報とコミュニケーションに制約が出てしまうというのがありますので、その辺も含めて少し説明があると、なおのこと理解が広まって良いのかなと思います。おそらく、そういうところが災害時の時の支援にもつながってくると思います。

小学校、中学校の授業は、色々きっかけにはなりやすいと思いますので、私自身も感じることはあるので、プラス、何かしらの障害者理解の講習会とか、お話の場で、そういう方もいますよと併せて説明すると、もう少し年齢層を広く、色々な方にも知っていただけるかなと思うので、いろいろな場でお話をさせていただければと思っています。

【事務局】

ありがとうございます。色々参考にさせていただきたいと思います。

失語症者の方、高次脳機能障害のある方に関しては、本年度、言語聴覚士会と講演会を実施したという話をしましたが、我々も当事者が実際にどういうことに困っていて、どういう状態像の方なのかをきちんと把握できていないのかなと思い、県の言語聴覚士会が失語症者向けの意思疎通支援者の養成講習会を行っていますので、そちらの見学も行かせていただきました。やはり、聞くのと見るのでは大違いで、大変勉強になりました。

当事者の方がその研修にいらっしまったわけではないですが、言語聴覚士の方がロールプレイのような形で実践をしたのですが、大変な状態の方たちで、支援の工夫というの深いなと感じました。

当事者の方がどういう方なのか、目で見て知ってもらうことが大事かなと思います。

そういう機会が増やせたら良いなと思っています。

【小菅委員】

1点目なのですが、この協議の場で、何度か出た災害、避難所のことについて、来年度にやっていただけるということは、議論した意味があったと私も期待しています。ぜひよろしくお願ひしたい。

もう1点は、最初に皆さんが言っていた手話通訳者のところでは、

受講者は増えてきていて、想いをもって申し込んでいただいている方がいる一方で、修了者が少ない。回数が多くて、なかなか難しいのかと。

大武委員からも、手話って難しいと話がございましたので、想いだけではできないこともあるのかも知れませんが、できれば、せっかくこれだけ大勢の方が申し込んでいるので、全員が修了するのは難しいかもしれませんが、なんとか修了できない方たちを減らすような工夫や努力、途中でやめてしまう理由がわからないのですが、可能であれば、それが分かれば、次のステップに進める方が増えていくのではないかと思います。その辺の研究などできるようであればお願ひしたい。

【事務局】

ありがとうございます。

やめてしまう方の理由、なかなか聞きづらく把握できてはいませんが、確かにそこが分かれば歯止めが掛けられるので、考えてみたいです。

やはり、長く続けていただけるという時には受講者同士のつながりもとても大事かと思ひます。助け合うような関係性づくりが大事かと思ひます。

講習会の雰囲気作りについては、講師の方も工夫していただいておりますが、意識していきたいです。

【山田委員】

横須賀中途失調者・難聴者の会の山田と申します。まずはお礼から、総合福社会館の電光掲示板に普段は各行事等の予定が書かれていますが、緊急時はそこに掲示してくだるようになったこと、ありがとうございます。長年、支援の要望として出していた、パソコン要約筆記者のパソコンの使用料を検討していただけたこと、とてもうれしく思ひます。

今、手話講習会についてですが、初級というのは、私も受けたことがあるのですが、ちょっと手話をやってみたいとか、ろうの方とお話してみたいという人が初級をうけるので希望者がとても多いと思ひます。

基本となると上に行きますので、申込者がだんだん少なくなると思ひます。手話通訳者になりたいという方がいらっしやればいいと思ひますが、ボランティア程度でという考えの人も多いと思ひます。手話通訳者になるために、手話通訳者の待遇が良くなると、職業として手話通訳者になるということが大事だと思ひるので、今回増額して頂きましたが、やはり、手話通訳者が、職業として余力のある待遇が必要なのではないかと感じました。

【事務局】

ありがとうございます。おっしゃる通りだと思っております。なかなかすぐに、一気にはいかないですが、少しずつ進められたらいいなと思ひます。

前段の方でお話しいただいた手話講習会の初級に申し込まれる方はまだ、通訳者まではという意識はないのかなと思います。まずは簡単な手話を学びたいとか、特定の方がいらっしゃればその方と少しお話ができるようになりたいとか、そういったきっかけの方が多いのと思っています。

その方から手話通訳者になりたいとか、要約筆記者もそうですが、通訳者になりたいと思わせていく何か仕組みみたいなものがあるといいのかなとお話を聞いていて思いました。

そのためには待遇もそうですが、通訳者とはこういう仕事ですよとか、皆さんに分かるように、どんな活動をされているとかそういったことがあればイメージがし易くなるのかなと思うので、そういうことも何か検討できればと思います。

【白井委員】

手話通訳者の講習は来年度、夜に実施すると聞きました。

音訳ボランティアなど、それ以外についても、例えば、夜の実施が可能であれば検討していただきたい。もっと言えば土・日であったりとか、教わる側も教える側もどういったところが数を増やしやすいくところなのかを少し探っていってもらえたらと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。

休日の開催は検討したいと思っていたところです。

講師の都合もあるので、開催できるかわかりませんが、土・日は参加しやすい方が多いのかなと思いますので、できたらいいなと思います。

音訳・点訳ボランティアの数は多いですが、ある程度のレベルに達しないと実際に点訳したり、音訳したりは難しいです。

とにかく、数が少ないとある程度のレベルに達する方も少なくなります。数を増やすには、若い方をボランティアとして育成したいという意見が点字図書館の中でも出ています。

そういう方は昼間には来られないので、夜間や土・日も考えないといけないという意見も出ています。

講師の方が市の職員ではなくて、会計年度任用職員の方に実施していただいているので、そこが課題となっています。

【井上委員長】

ありがとうございました。

ちょっと戻りますが、県立保健福祉大学の手話サークルの話題が出ましたので、私は、この手話サークルの顧問をしており、学生の様子を見ています。

熊谷委員の聴覚障害者協会から講師を派遣していただき、学生が手話を学んでいます。

先程の手話通訳者になるまでのゴールをもうけて、学生に活動をとなるとどうしてもハードルが上がってしまいます。

実際の学生の声としてはそこまですではなく、手話に触れたい、手話を知りたい、といったモチベーションの学生が多いようです。

サークルの中では伝統があるサークルで、毎年それなりの人数とメンバーが入ってきます。定期的に活動もしていますのでモチベーションを上げてほしいと考えていますが、昨今の学生の様子からして、あまり強要するとなかなか難しいところもあります。

先ほど話題にも出ましたが、到達点を少しずつ小刻みに設定して、ここまでやったらどうかと活動の提案していくと目的をもってやってみよう、となり易いのではないかと感じます。

そこにつなげるところとして、手話通訳の講習会に関しても、例えば、ここまでやったら、ここまでやりましたと少しの期間保持できて、その続きから再開できるような仕組みがあると、時期的に参加が難しい方も、またやってみようと、トライしやすいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。

途中でやめられた方がゼロからというのは、難しいと私も感じているところでありましたが、実際に講師からすると、それも難しいというものがあるようで、講師の方と色々相談してみます。

達成感みたいなものが小刻みにあると、皆さん続けやすく、モチベーションにつながりやすいと思うので、その視点でもできることはないかと考えてみます。

他に意見はなく、議事(4)「令和7年度の取り組み案について」の議事は終了した。

以上で、次第2の議事は全て終了した。

3 その他

進行は井上委員長から事務局となった。

これまでの議事以外でお知らせ等含め、意見があるかどうか確認したが、特になく、本日の次第は全て終了し、第20回(令和6年度第2回)障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会は終了となった。